

事故から25年…  
まだ終わっていない

1986年4月26日

チェルノブイリ原発事故発生。

それは当時生まれた子供たちにたくさんの災いを及ぼした

放射線の影響で心臓に重度の障害をもった子供たち、

それを「チェルノブイリ・ハート」と呼ぶ。

# チェルノブイリ ハート



アカデミー賞<sup>®</sup> 短編ドキュメンタリー賞受賞

監督・プロデューサー：マリアン・デレオ

編集：ジョン・カストディキ 協力：アディ・ロッシュ 「チェルノブイリ子どものプロジェクト」代表 製作：©2003タウンタウンTVドキュメンタリーズ  
2003年 アメリカ映画 Chernobyl Heart 提供：タキシーズ 配給：ゴーシネマ 配給協力：アニメアクト

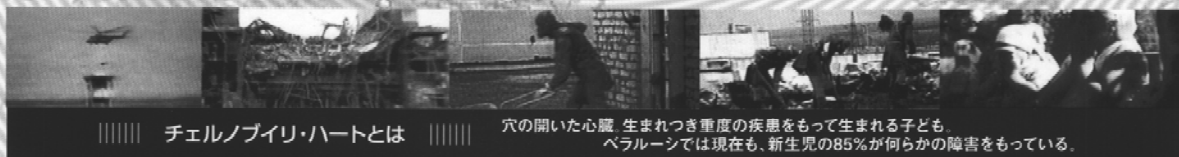
[www.gocinema.jp/c-heart/](http://www.gocinema.jp/c-heart/)

それでも“安全”だと言えますか？

チェルノブイリ事故から16年後の2002年、ベラルーシ共和国。  
「ホット・ゾーン」の村に住み続ける住民、放射線治療の現場、小児病棟、乳児院…  
今なお続く被爆被害の事実を追った渾身のドキュメンタリー。

チェルノブイリ原発事故:1986年4月26日

旧ソビエト連邦(現ウクライナ)のチェルノブイリ原子力発電所4号炉の爆発事故により放射性降下物がウクライナ、ベラルーシ、ロシアを汚染した。現在もなお、原発から半径30キロ以内の居住が禁止され、北東350キロ以内に「ホット・ゾーン」と呼ばれる局所的な高濃度汚染地域が約100ヶ所も点在し、そこでの農業や畜産業は全面的に禁止されている。



||||| チェルノブイリ・ハートとは |||||

穴の開いた心臓。生まれつき重度の疾患をもって生まれる子ども。  
ベラルーシでは現在も、新生児の85%が何らかの障害を持っている。

事故から20年、原発事故後はじめて故郷に帰った青年は、廃墟となったアパートへ向かう。

爆心から3キロの強制退去地域は、1986年で時間が止まったまま。

何もかも台無しにした原発事故。色あせた1986年のカレンダーを見つめて「近親者の10人がガンで死んだ。放射能とは無関係と言われることを、俺が信じると思う？俺もそうやって死ぬんだ。とんだ犬死だろ」とつぶやいた彼も、その1年後に亡くなった。享年27。



## マリアン・デレオ監督からのメッセージ

チェルノブイリ原発事故を題材に映画を撮った私には、フクシマの原発事故は「悪い夢」のように思える。

「4半世紀に一度、事故が発生したとしても、それでも原子力発電所は安全だ」と言う人がいる。

同じ言葉をウクライナやベラルーシの人々に向かって言えるだろうか？

彼らは何十年間も、残留放射能と共に暮らしている。

この言葉を甲状腺がんに冒された何千人ものティーンエイジャーたちに言えるだろうか？

今はただフクシマが、第二のチェルノブイリになる前に収束することを切に祈る。

### マリアン・デレオ監督

ドキュメンタリー作家。エミー賞2回のほか数多くの受賞経験がある『チェルノブイリ・ハート』は2003年アカデミー賞ドキュメンタリー部門でオスカーを獲得。これまでにベトナム、グアテマラ、イラク他数十カ国での取材経験がある。湾岸戦争時には、イラク国内から米機関の映像も持ち出した。

### 岩井俊二さん(監督)

放射能の恐ろしさとは…  
ここに来てもまだ自分の認識の  
甘さを知りました。  
(twitterより)

### 加藤登紀子さん(歌手)

人間は、少しずつ進歩していると思っていた。  
どこから道を間違えたのだろう。  
自然を力づくで壊してきた人間は今や自分という  
自然を破壊している！  
それでも最後まで言おう、命は美しいと！！

### 松田美由紀さん(女優)

放射能の恐ろしさ！  
本当にこれはジョークじゃない。  
心が折れない時に是非見て欲しい。  
(twitterより)

# チェルノブイリ・ハート

[www.gocinema.jp/c-heart/](http://www.gocinema.jp/c-heart/)

監督・プロデューサー:マリアン・デレオ/編集:ジョン・グストディオ/協力:アディ・ロッシュ「チェルノブイリ子どものプロジェクト」代表  
2003年/アメリカ映画/上映時間:61分/Chernobyl Heart/提供:タキシーズ/配給:ゴースナマ/配給協力:アニーブランネット

2012年9月21日(金) 18時開場 18時30分開演 厚木市文化会館小ホール

\*講演「原発を利用するリスクを学ぶ」高田ゆみ子氏(みえない雲翻訳者) \*映画「チェルノブイリ・ハート」上映

入場料/前売800円 当日1,000円 学生500円 前売所/厚木市文化会館(046-224-9999)・有隣堂厚木店・晴れ屋

主催・お問い合わせ:あつぎ環境市民の会 046-224-5010(狩野) 後援:厚木市・厚木市教育委員会